

<ようじむ 幼児向き>

「おすしのずかん」

大森 裕子／作 白泉社
まぐろ、さーもん、たいにあじ。たこ、えび、たまごにはんぱ一ぐ。おすしとおすしになるおさかなをまなべます。みんなはなんのおすしがすき？

「もりのてぶくろ」

八百板 洋子／ぶん 福音館書店
ナターリヤ・チャルーシナ／え
もりにてぶくろのようなかたちのはっぱがいちまいおちていました。はっぱにぴったりあうのはだれのと？

「イエペはぼうしがだいすき」

石亀泰郎／写真 文化出版局編集部／文 文化出版局刊
デンマークにすんでいるイエペは3さい。だいすきなぼうしをかぶってほいくえんにいきます。

「さつまのおいも」

中川 ひろたか／文 村上 康成／絵 童心社

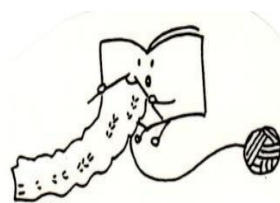
つちのなかで、おいもたちはまいにちからだをきたえています。こどもたちとのつなひきにまけないように。たとえまけたって、すごーいおかえしをしちゃいます。

「せきたんやのくまさん」

フィービ・ウォージントン／さく・え セルビ・ウォージントン／さく・え
いしい ももこ／やく

福音館書店

くまさんのおしごとは、せきたんをうることです。はたらきもののくまさんのいちにちがはじまります。



「やまなしもぎ」

平野 直／再話 太田 大八／画 福音館書店

むかし、あるところに3人のきょうだいがすんでいました。ぐあいのわるいおかあさんのために、おくやまにやまなしをとりにいきます。

「ごはん」

平野 恵理子／作 福音館書店

ごはんをつかったおりょうりが大しゅうごう。たきこみごはん、オムライス、おむすび、おすし、かつどん…すきなごはんはあるかな？

「きのみのケーキ」

たるいし まこ／さく 福音館書店

たぬきがつくったケーキがなくなっちゃった！？もりのみんなは……。

ていかくねんむ
＜低学年向き＞

ほ かき
「干し柿」

西村 豊／写真・文 あかね書房

あまくてやわらかい干し柿は、もとはしぶ柿だったんですよ。どうしたらできるか、作り方もわかります。

「ぞくぞく村のおおかみ男」

末吉 暁子／作

垂石 眞子／絵

あかね書房

おおかみ男のちくちく先生は、ぞくぞく村の歯医者さん。うでがよく、いつも大いそがし！そんなちくちく先生にはなやみがあって…

「もりのかくれんぼう」

末吉 暁子／作 林 明子／絵 偕成社

こうえんであそんだかえりみち、けいこはおにいちゃんのあとをおって、いきどまりのいけがきをぬけると、そこにはみたこともないおおきなもりがありました。

「きょうのごはん」

加藤 休ミ／作

偕成社

きょうのごはんはなに？ネコがばんごはんのパトロール。カレーにオムライスにコロッケ、どれもとってもおいしそう！

「たのしいふゆごもり」

片山 令子／作 片山 健／絵

福音館書店刊

きのみ、きのこ、さかなに はちみつ。くまのおやは もりのめぐみをあつめて、ふゆごもりの よういをはじめます。あたたかさが つたわってくる きがしますよ。

「おおきなおおきなおいも」

赤羽 末吉／さく・え

福音館書店

おいもの絵を描きはじめた子どもたち。紙をどんどんつなげると、おおきなおおきなおいもができました。

「どんぐりもりのおきゃくさん」

香山 美子／さく

飯村 茂樹ほか／写真

ひさかたチャイルド

さる、りす、ねずみ。いろんな動物たちがやってくるどんぐりもり。さて、きょうのおきゃくさん、だーれ？

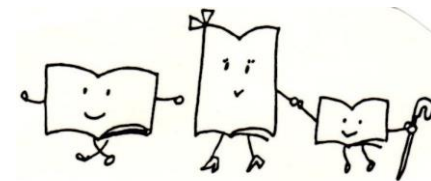
「番ねずみのヤカちゃん」

リチャード・ウィルバー／さく

松岡 享子／やく 大社 玲子／え

福音館書店

ドドさんの家に住むおおかみさんねずみと4匹の子ねずみたちは、人間に見つからないようにこっそり暮らしていました。ところが、4番目の子ねずみ・ヤカちゃんは声が大きくて……。



< 中学年向き >

「^ほ干したから…」

森枝 卓士／写真・文 フレーベル館

お米にパスタ、^ほ干し柿、^{ひもの}魚の干物…
みんな干したものです。どうしてわざわざ干したのかな？干すと何が^か変わるのかな？

「^{やまねこ}どんぐりと山猫」

宮沢 賢治／作 田島 征三／絵

三起商行

ある日、一郎に届いたおかしな^{はがき}葉書。
「さいばんしますから、おいでんなさい。」それは^{やまねこ}山猫の^{はんじ}判事と^{どんぐり}どんぐりたちの^{きみょう}奇妙な^{さいばん}裁判のお誘いでした。

「ゆきひらの話」

安房 直子／作 田中 清代／絵 偕成社

おばあさんがかぜをひいてひとりでおねていると、台所のあたりでコトコトと音がします。だれもいないはずなのにいったいだれでしょう？

「クモのアナンシ」

フィリップ・M. シャーロック／再話
マーシャ・ブラウン／絵 小宮 由／訳
岩波書店

ジャマイカの昔話。アナンシは、時々人間^{にんげん}になったり、クモになったりします。そして、ずるがしこさで自分より大きい動物を相手に^{だいかつやく}大活躍。

「かみさまのベビーシッター」

廣嶋 玲子／作 木村 いこ／絵 理論社

^{ふくび}福引きで大当たり！幸介はかみさまのたまごを手に入れた。これで^{こううん}幸運にめぐまれて^{ねが}願い事もかなう、はずだったのに、かみさまの赤ちゃんはお世話も^{たいへん}大変で……。

「おすしやさんにいらっしゃい」

おかだ だいすけ／文 岩崎書店

みんなが好きなおすしもかつては生きものだった！生きものが食べものになるまでのお話。

「アビーとテスのペットはおまかせ！」

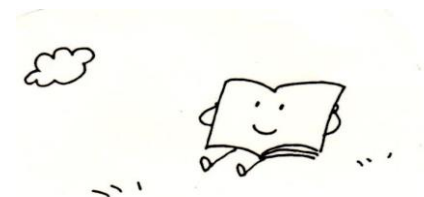
トリーナ・ウィーブ／作
しまだ しほ／絵 宮坂 宏美／訳
ポプラ社

アビーのゆめは、じゅういになること！でも、アビーの住むアパートは「ペットおことわり」。そこで、近所のウィルソンさんが飼っている金魚を、るすの間妹のテスとお世話させてもらうことにしました。2人は無事お世話できるのでしょうか。

「落ち葉」

平山 和子／文と絵
平山 英三／構成と写真 福音館書店

秋、色鮮やかに染まった^{あざ}落ち葉たち。同じ葉でも色や^そ模様が様々です。自然が作り出す色の美しさを感じることができる本です。



<高学年向き>

「クローディアの秘密」

E. L. カニグズバーグ／作

松永 ふみ子／訳 岩波書店

クローディアは、弟のジェイミーを誘^{さそ}って家出をすることにしました。

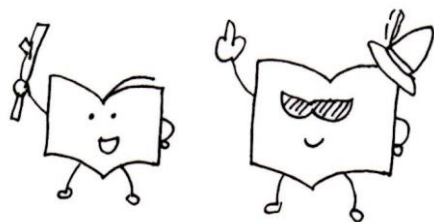
なんと家出先はメトロポリタン美術館。

2人は、ミケランジェロ作とされる天使の像の謎^{なぞ}を解こうとします。

「怪盗紳士」

ルブラン／原作 南洋一郎／文 ポプラ社

天才的な頭脳、驚異的な運動神経、自在にその姿を変える変装の名人。風のごとく現れ、風のごとく消える、その男の名は怪盗紳士アルセーヌ・ルパン。ルパンの華麗なる犯行をとくとご覧あれ。



「岸边のヤービ」

梨木 香歩／著 小沢 さかえ／画

福音館書店

ある日ウタドリさんが岸边で出会ったのは不思議な生きもの「ヤービ」。小さくてふわふわで、水にもぐれて言葉をしゃべる、すてきなヤービとウタドリさんのあたたかい交流が始まります。

「カマキリと月」

マーグリート・ポーランド／作

さくま ゆみこ／訳 リー・ヴォイト／画

福音館書店

月^{つか}を捕まえようとカマキリはいろいろな方法を考え挑^{ちょうせん}戦しますが……

月^{つか}を捕まえることはできるのでしょうか。

「お蚕さんから糸と綿と」

大西 暢夫／著

アリス館

滋賀^{さんろく}県の山麓の集落に、一軒^{いっけん}だけ残っている養蚕農家。春と秋、お蚕さんを育て、繭^{まゆ}から糸をとる。蚕と共に生きる人々の姿を追う写真絵本。

「好奇心の部屋テロール」

今森 光彦文・写真

福音館書店

パリのふしぎなお店テロール。じっさいのはくせいや、標本を見せてくれる博物館みたいなお店の中を写真でたくさん紹介します。

「こんぴら狗」

今井 恭子／作 いぬんこ／画 くもん出版

人間のかわりに、犬が神社にお参りした！？江戸時代には、本当にあった話なんです。江戸から、はるばる四国のこんぴらさんへ、犬のムツキと、いざ、まいろうか！

「^{じゅみょう}寿命図鑑」

やまぐち かおり／絵 いろは出版／編著

いろは出版

動物、植物、食べ物、モノ、天体……生き物だけでなく、こんなものも?! というものまで、いろいろなもの^{じゅみょう}の寿命を豆知識と一緒^{いっしょ}で紹介^{しょうかい}します。